

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 教授

氏名 本田晃子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技術学科の専門科目では、国家試験に合格するという入学時からの学生の目標を叶えるために、国家試験合格に繋がる基礎的な知識が習得できるような教育を心がけています。卒業論文においては社会に出てから役立つ、実験手技の取得、自ら学習する能力、問題解決能力、責任感、協調性やプレゼンテーション能力を修得できるように指導しています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
臨床血液学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	2	87
臨床血液学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	109
臨床血液学実習	臨床検査技術学科	必修	3	103
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	105
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	100
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	102
基礎化学実験	臨床検査技術学科	必修	1	86
キャリア演習	臨床検査技術学科	必修	1	83
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	4	12
生体防御学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技術学科は臨床検査技師を養成する学科であるため、医療に貢献できる人材の育成を教育の理念としています。医療現場で求められる基礎的知識および基本的な検査手技の取得に加え、検査をより深く理解し、疾患と検査結果の関係を考察できる学生の育成に努めています。さらに、社会に出てから役立つ問題解決能力、責任感、日々進歩する医学や医療を自ら主体的に学習する能力、そしてチーム医療で必要とされる協調性、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を取得できるよう指導しています。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

医療に貢献できる人材を育成するためには、医療現場で求められる基礎的知識が必要です。講義を漫然と聞いているだけでは知識を取得することはできません。そこで、講義では毎回小テストを行い重要なポイントを認識できるようにし、小テスト直後に解説を行うことで講義内容の理解が深まるような取組を行っています。また医療現場では、日々進歩する医学や医療を自ら主体的に学習する能力や問題解決能力が求められます。そこで、学年全員の小テストの結果はグラフ化し、次回の講義始めに公表することで、各自の学年での成績が把握できるようにし、自学自習を促す取組を行っています。実習では、得られたデータには必ず考察を加えたレポートを作成することを課題とし、実習の原理・方法・基準範囲を理解した上で、検査結果と疾患との関係を考察することで、問題解決能力が身につくような取組を行っ

ています。また、実習初回のオリエンテーションでは、実習中の反応時間などを利用したレポート作成も可能であることを説明し、学生の主体性を伸ばし、実習時間の有効活用ができるような取組を継続して行っています。卒業論文においては、グループでの活動や合同の勉強会を通して、社会に出てからも役立つ責任感、協調性、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を取得できるような取組を行っています。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義では事前に資料をAzaMoodleにアップロードし予習の機会を与え、能動的な学習を推奨しています。実習ではグループ内で結果を共有し考察する取組を行い、協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力の取得に役立つような工夫をしています。

#### (2) ICTの教育活用

有

実習では、手技を撮影した動画を利用した視覚教育を取り入れています。最初に、動画で手技のポイントを理解しイメージトレーニングを行うと、より正確な手技の取得に繋がると感じています。また、講義資料の配布および小テストはAzaMoodleを活用し実施しています。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義では、包括的な理解に繋がるように、疾患と検査結果の関連についても説明を追加しています。また講義内容の正確な知識取得に繋がるように、毎回小テストを実施し、小テスト直後に、どの部分が誤りであるのか、正しい答は何かについて丁寧に解説しています。

#### (2) 学生の理解度の把握

A

講義では毎回小テストを実施し、全ての小テストの結果を表にまとめ、学生全員の理解度が把握できるようにしています。

### **(3) 学生の自学自習を促す工夫**

**B**

講義資料は事前にAzaMoodleにアップロードし、能動的な学習を推奨しています。講義で実施している小テストの結果は、各自の学年での成績が把握できるようにグラフ化し、次回の講義の始めに公表しています。これら取組により自学自習を促しています。

### **(4) 学生とのコミュニケーション**

**A**

学生からの質問には必ず対応することを心がけています。また、講義内容の質問には、教科書や参考書の頁を提示することで、学生の自学自習に繋がるような工夫をしています。

### **(5) 双方向授業への工夫**

**B**

講義・実習後には質問時間を設け、質問があった場合は、可能な限りその場で対応するように努めています。また、メールでの質問にも丁寧に対応するように心がけています。

### **(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

**A**

早期（2年次）より、授業時間内に国家試験問題あるいは類似問題の小テストを実施し、近年の国家試験問題の傾向が把握できるような取組を行っています。4年次の国家試験対策授業の校内試験問題および模擬試験問題の正答率を分析した結果、在校生が苦手とする項目の重点的な講義は、国家試験対策になると感じています。そこで、国家試験対策授業では、在校生が苦手としている項目について説明を追加しています。また、項目別にまとめた練習問題および要点をまとめた資料を配布し、選択肢毎にどの部分が誤りであるのか、正しい答は何かについて丁寧に解説しています。そのような教育的な取組を継続的に行うことで、基礎的な知識の定着、国家試験合格に繋がるような学力の向上を目指しています。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生から好評であった配布資料や授業のスライドについては、近年の国家試験問題の傾向を踏まえ、継続しました。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

配布資料と授業のスライドは好評で、国家試験対策になるとの意見がありました。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

資料の配布と小テストの実施および小テスト直後の解説は、今後も継続する予定です。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義における小テストの実施と小テスト直後の解説は、自学自習の習慣付けと知識の定着向上に役立つとの意見があり、今後も継続する予定です。また、近年の国家試験問題の傾向を踏まえた講義は、国家試験合格率向上に繋がると思われるため今後も継続する予定です。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生から、「小テストがあるため振り返りができる。」「毎回の小テストのおかげで知識の定着率が向上し講義に意欲的に取組むことができた。」との意見がありました。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

今後の教育指導に役立てるため、可能な限り講演会や研修会に出席しました。出席できなかった場合は後日録画を視聴しました。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技術学科の学生の「国家試験合格」という目標を叶えるために、短期目標として、専門分野の基礎的知識が取得できるような取組を実施していきます。また、社会に出てから役立つ長期目標を達成するために、自ら学習する能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を取得できるような取組を実施していきます。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、配布資料、小テスト、小テスト解説、授業評価アンケート結果